

試食会における食べ物と家族との関係

ミネソタ大学 教授 Polly Szatrowski

食べ物と家族との関係は、従来の会話分析による研究では、実際に家族が食べている時に食べ物に関してどのような話をするかに焦点がおかれてきた。しかし、家族とではなく、家族以外の人と食べながら話す際、家族について話すことが多く観察される。本研究は、性 (FFF、FFM、FFM、MMM) と年齢 (30 歳未満と 30 歳以上) で組み合わせた、3 人の参加者からなる試食会のビデオ (日本語 13) を対象にし (ザトラウスキー 2011)、どのように食べ物と家族との関係について話すのかを考察する。考察の観点として以下の 3 点を挙げる。

- a. 食べ物と家族の話は何がきっかけ (trigger) で始まるのか?
- b. 食べ物と家族との関係についてどのように話すのか?
- c. 食べ物と家族の話は参加者の相互作用の中でどのように食べ物の同定 (identification) と評価に影響するのか?

食べ物についての話は、参加者の文化、社会的なグループ (social group) で何が重視されるかを示す (Bourdieu 1984, Ochs & Shohet 2006)。言語の社会化は、子供とその他の初心者 (novice) が言語とその他の記号論的な様式 (semiotic modalities) を通して社会・文化的な能力 (competence) を習得する過程 (Ochs & Shohet 2006: 36) であるが、食事をしている場面等での言語の使用に基づいて研究されてきた (Duranti, Ochs, & Schieffelin 2011; Garrett & Baquedano-Lopes 2002; Kulick & Schieffelin 2004; Ochs 2002; Ochs, Pontecorvo, & Fasulo 1996; Ochs & Schieffelin 1984, 1985, 2006; Ochs & Shohet 2006; Schieffelin & Ochs 1986; Szatrowski 印刷中)。食べ物を通して行われる子供の社会化に関する研究では、食事の時間 (mealtime) は世界に関する社会、道徳、局所的な理解を作り出す豊かな舞台であると述べている (Ochs, Pontecorvo, & Fasulo 1996, Ochs & Shohet 2006)。Ochs & Beck (2013) はアメリカの家族では何を食べるか、一緒に食べるかどうか、一緒に食べる場合にはどのような話をするのかを考察している。このように、実際に家族が食べている時に食べ物に関する話で社会化、食べ物の嗜好、食べる習慣、家族の役割と関係が相互作用の中から生まれる。しかし、家族以外の人と食べる際に食べ物と家族に触れることについてはほとんど研究されていない。

本研究の資料では、年齢との関係では、30 歳未満の参加者は、自分の家で子供の頃に食べた食べ物を思い出すが、30 歳以上の参加者は味の嗜好の変化を示すために自分と家族の話をするのが見られた。食べ物の嗜好はそれぞれの家族で子供の頃から食べている食べ物の、味、匂い、舌触り、見た目等の経験を通して作り上げられるが、人生の中で嗜好の変化があった場合、育った家族で食べた食べ物と比較・対照することがある。

食べ物と家族との関係の話のきっかけは、試食会で食べている食べ物、試食会の未知のものの同定 (identification) や評価を支持したり、自分の行動を説明したりする必要性等であった。試食会で食べ物と家族については以下のような話が見られた。

- a. おばあさんのこと（電子レンジで稲光を起こした話、しそジュースを作った話 [JPN2:MMF<30]、おばあさんが作った梅干しの匂い [JPN3:FFF<30]、パンの上にひじきを乗せて食べる話 [JPN11: MMM>30])
- b. お母さんの行動（母親は辛い物を作らなかった話、母親はコーヒーが好きになった話 [JPN11: MMM>30])
- c. 親のしつけに関する話（ひじきを食えと言われた話、全部食べるように言われた話 [JPN1:MFM>30])
- d. 自分の子供の頃の話（小さい時のお箸の使い方 [JPN2:MMF<30]）、食べる早さについての話 [JPN14:MFF<30])
- e. 自分のうちの味についての話（自分とその他の参加者のうちで作るうどんの材料と味 [JPN3:FFF<30]、自分の子供が甘いカレーを食べる話 [JPN11: MMM>30]、皆お箸が大切である話 [JPN1:MFM>30])

相互作用の中では試食会で食べている食べ物の同定 (identification) と評価を支持したり、皆が楽しむために用いられていた。また、食べ物と家族との関係について話すことで、自分の生まれ育った状況、親戚に関する情報やその人の個人情報をも明かすため、自分がどのような人なのかというアイデンティティと密接な関係があった。

参考文献

- Bourdieu, Pierre. 1984. The habitus and the space of life-styles. *Distinction: A social critique of the judgement of taste*, translated by Richard Nice, 168-225. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Duranti, A., Elinor Ochs, E., & Bambi B. Schieffelin, eds. 2011. *The handbook of language socialization*. Malden, MA: Blackwell.
- Garrett, P. B. & P. Baquedano-Lopes. 2002. Language socialization: Reproduction and continuity, transformation and change. *Annual Review of Anthropology* 31:339-61.
- Kulick, D., & Bambi B. Schieffelin. 2004. Language socialization. *A companion to linguistic anthropology*, ed. by A. Duranti, 349-368. Oxford: Blackwell.
- Labov, William. 1972. The transformation of experience in narrative syntax. *Language in the inner city*, 354-396. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.
- Mandelbaum, J. 2010. Concurrent and intervening actions during storytelling in family “ceremonial” dinners. *Telling stories: Language, narrative, and social life*, ed. by Deborah Schiffrin, A. De Fina, & A. Nylund, 161-172. Washington, D.C.: Georgetown University Press.
- Ochs, E. 2002. Becoming a speaker of culture. *Language acquisition and language socialization: Ecological perspectives*, ed. by C. J. Kramsch, 99-120. London: Continuum.
- Ochs, Elinor & M. Beck. 2013. Dinner. *Fast-forward family: Home, work and relationships in middle-class America*, ed. by E. Ochs & T. Kremer-Sadlik, 48-66. Los Angeles: University of California Press.
- Ochs, Elinor, Coltilde Pontecorvo, & Alessandra Fasulo. 1996. Socializing Taste. *Ethnos* 61.1-2:7-46.

- Ochs, Elinor, & Bambi B. Schieffelin. 1984. Language acquisition and socialization: Three developmental stories and their implications. *Culture theory: Essays on mind, self and emotion*, ed. by R. A. Shweder & R. A. Levine, 276-320. New York: Cambridge University Press.
- Ochs, Elinor, & Bambi B. Schieffelin. 1995. The impact of language socialization on grammatical development. *Handbook of child language*, ed. by P. Fletcher & B. MacWhinney, 73-94. Oxford: Blackwell.
- Ochs, Elinor, & Bambi B. Schieffelin. 2006. The impact of language socialization on grammatical development. *Language, culture, and society: Key topics in linguistic anthropology*, ed. by C. Jourdan & K. Tuite, 168-189. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ochs, Elinor, & Merav Shohet. 2006. The cultural structuring of mealtime socialization. *New Directions for Child and Adolescent Development* 111 (Spring): 35-49.
- Schieffelin, Bambi B., & Elinor Ochs. 1986. Language socialization. *Annual Review of Anthropology* 15(1):163-246.
- ザトラウスキー、ポリー2011「試食会の言語・非言語行動について——三十歳未満の女性グループを中心に」『比較日本語学教育研究センター研究年報』7, pp. 25-36. (お茶の水女子大学)
- ザトラウスキー、ポリー2013「食べ物を評価する際に用いられる『客観的語句』と『主観的語句』について」『国立国語研究所論集』5, pp. 95-120.
- Szatrowski, Polly, ed. 印刷中 *Language and food: Verbal and nonverbal experiences*. Amsterdam: John Benjamins.